



伝説の戦士でも
負完全とは関わりたくない

成人向

また

生徒会室

今日の
生徒会の仕事も
終わったし

帰るか

『やあこんにちわ
生徒会長さん』

あなたは
誰？

『最近
この学校に来た
転校生だよ』

『僕の名前は
球磨川 禊』

何の
用ですか？

『その前に
プリキュアに
変身してくれないかな』

『僕は君なんかじゃなくて
伝説の戦士の方に
用があるんだ』



それに何で
プリキュアのこと
知ってるの？

何？この人？
確かに何か
危険だわ



プリキュア
ラブリンク！

愛
みなぎる

キュア
ハ！

キヤア？

『あはは
日本のアニメって
何で』

『名乗りを
上げるまで
放っておくんだろうね』

『隙だらけ
なのだよ』



『無理無理
逃げようたって
無駄だよ』

『隙を見せた
君が悪いんだ』

くっつ！



『僕は
悪くない』

一体私に
何の用なの？



『実は用という
程の物でもないん
だけど』

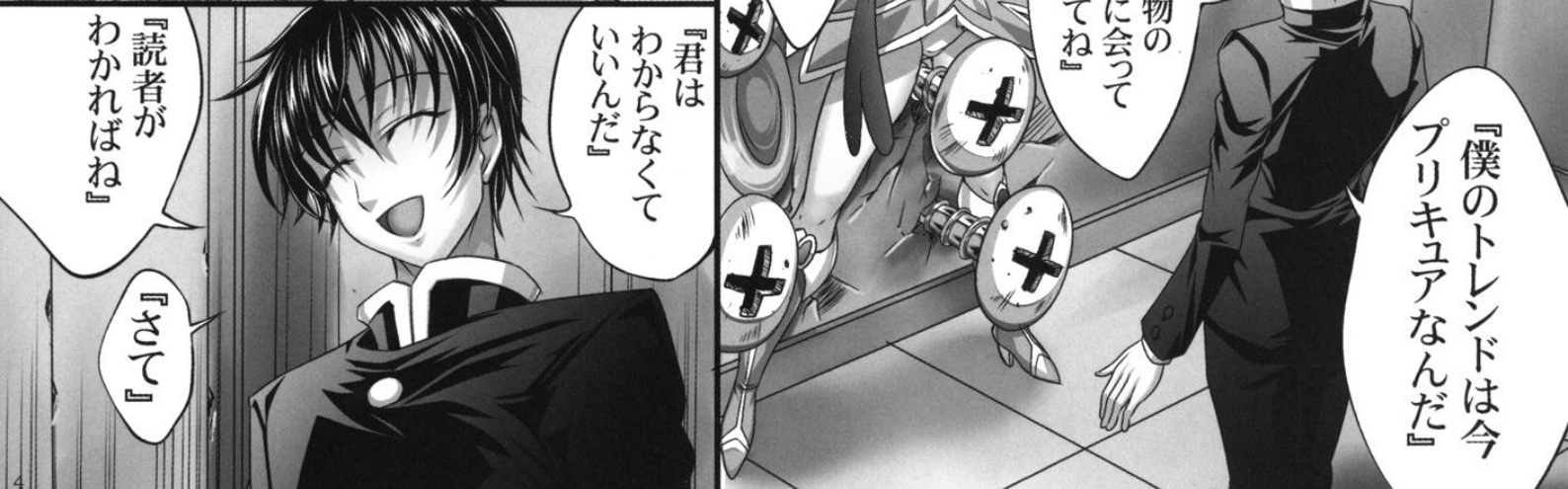
『それで本物の
プリキュアに会って
みたくなってるね』

え？

『それにくら
伝説の戦士だって
僕の知り合いの生徒会長に
比べれば』

『たいした事は
ないよ』

一体
何の事？



『僕のトレンドは今
プリキュアなんだ』

『君は
わからなくて
いいんだ』

『読者が
わかればね』

『さて』

『成績優秀で
スポーツ万能
オマケに生徒会長
みんなに好かれて』

『その上
伝説の戦士まで
やっている人がいるって
聞いて来たんだ』

や…やめて！

『すごいね
ホントに本物なんだ』

『目の前でみると
実感が
湧くなあ』

『伝説の戦士を
オモチャにしに
来たのさ』

『簡単な事
だよ』

あなたの目的は
何なの？

何ですって？

『へえ…
ちゃんと肉体も
変化してるんだ』

まいっ

『最近キュアハートの存在を知ってね
スゴイスベックが高い
プリキュアって聞いて』

『どんなのかわか
らなくて
きてみたのさ』

『どういづつもり！』

『今言っただけじゃない
どうしたらキミを
僕のオモチャに
出来るかってことさ』

『キミの可愛い唇に
僕の肉棒を咥えてもらって
キミの素敵な乳を
採みしだいて』

『キミの膣内に
僕の生チンポをいれて
中出しするのさ
ワクワクするなあ』

『それだけの
こと？』



何を言っているの？
そんな事…

聞くわけ
ないでしょう！

え？
あ？

『キュアハートの攻撃は
僕には全て
効かなかったことにした』

オールライクシヨン
『大嘘憑き』



『ふっん
プロフィールには
生徒会長は何でも
身体を張って相談に乗ってくれる
って書いてあったけど?』

そんな事
するわけないでしょ!

『なんだ:
それじゃあ
仕方ないな』

『君の仲間の
プリキユアに
同じ事を頼むかなあ?』

そんな...

『僕のおもちやには
なってくれないの?』

『それがいやなら
僕と遊んでくれるよね
キュアハートちゃん?』

くっ

『どっちか
早く決めて
くれないかなあ』

あ...
うう...

えい

『ごうしてずっと
おとなしくしてくれるなら
僕も助かるんだけどな』

もぞもぞ

び、

あ……あ……

絶対に
みんなには
手を出さない？

本当ね？

も……

『もちろんさ
僕は他のプリキュアなんか
用はないんだ』

『キュアハートちゃん
一筋さ』

『僕は嘘は
つかないよ♪』

わかったわ

……

きやあ！

『それでは
遠慮なく…』

『気持ちいいなあ
こんなに揉み心地が
いいなんて…』

ふん

ちよちよつと
やめてよ！

いや！
これ以上は許して！

ふん

『何言っているの
僕のオモチャに
なってくれるんでしょ？』

『まだまだ…
これからが
楽しいんじゃない』





『嬉しいなあ』

Ngn
Ngn

なに…
これ…



ひっ!
なに…??

Ngn
Ngn



え?



『伝説の戦士に
僕のコレを
しゃぶって
もらえるなんてね』



『ふふふ…
伝説の戦士が
僕の肉棒を咥えている…』



Oya
Oya

ちよっ!
冗談で…
むぐう!



『この程度で
ネを上げていたら
キミの友達の所に
いつちやうよ?』

にゅるっ



あぐ...

にゅるっ



『そうそう
それじゃ自分ですすんで
奉仕してもらおうかな?』

そんな...

だん...



んんん
わんわん

『おおっ!』



『お友達が
どうなっても
いいのかい?』



『そうそう...
もっと舌を使って...』

わん-

『おおっ！気持ちいい
出るっ出すよっ』

『もう
我慢できない！』





ひっ!

アッ



あっ!

ちよっ!
どっ見てるの!

『さすが伝説の戦士
きれいな色だね?』



『品行方正な
生徒会長は
こんなこと初めてかな?』

すっ

『じゃあ
こんなのはどうかな?』

当然でしょ!



『他人の指が
自分の中に入ってくる
のはどうかな?』

ちよっ...
そんな...!

びびりー

ダメッ! そんな...

やめっ!

『気持ちいい?
もっと気持ちよく
してあげるよ♪』

はひっ!

だから!
ダメッて!
そこは...



『あはは
こんな程度で
そんなになっちゃ
ダメだよ』

助け…

あひ…

やめ…

『これからが
本番なのに』

もう…



まさか
本番つて？

うそでしょ？

あ！！

あ！！

あ！！

やめて！
ね？

こんなことしちゃ
ダメよ！

『断る。』

お願い！

もう一度
口でしてあげるから…

『嫌だ。』

もちろん
胸も好きだけど

揉んでいいから！

『もう遅い。』

勘弁して！
私が悪かったです…

『僕は悪くない。』

『入った!』

『うわっ!
気持ちいいっ!』

あつ…あつ…
ああ…あつ!

やめて…

やめ…

いやあ 抜いて!
抜いてえ!

『あはは
そんな訳ないじゃない』

『おおっいい!
キュアハートの
腔内』

『やわらかくて
気持ちいいっ!』

いやあああ
あああつ!



『もう
出るっ!』

えっ
出るって?!

やめて
中には
出さないでえ!

『出るっ!』

いやあ
やめてえ!

『ふう…
気持ち良かった』

『さすが伝説の戦士…
とても気持ち
良かったよ』

『何を言っているの？
まだまだこれからさ』

『感じるでしょ？
僕のコレは
キョアハートちゃんの中で
まだこんなに堅いんだよ』

『一回で僕を
満足させられなかった
キミが悪いんだ』

なんで…

満足したでしょ？

もう
許して…

う…
そんな…

『僕は
悪くない！』

『さあ
もう一度行くよ』

あぁ！

やめて
本当にもうやめて！

いやあ…
もういやあ…

『シヤラップ！
おとなしくしろ！』

あぁ！
あぁ！
あぁ！

あぁ！
あぁ！
あぁ！

『おおっ凄いつ
凄いで！
キュアハート！』

ひあ・ああ・
そんな
後ろからなんて…

『後から入れると
中が凄く締めつけて
動いて…』

やめ
やめ
やめて…

『出す
出すよッ』

そんな
後ろから
そんなにされたら…

ダメえこれ以上
膣内に出されたら
本当に妊娠しちゃううう

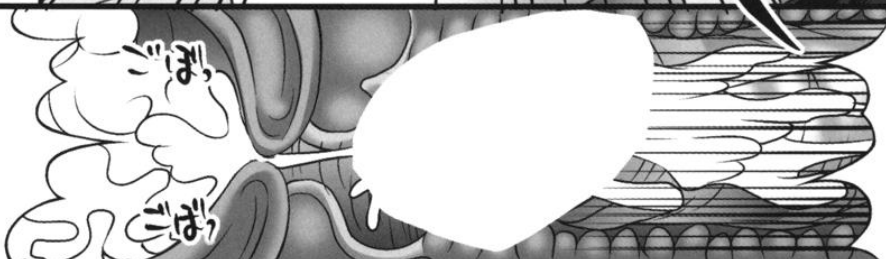
『もう
止まらないよ』



やめて
やめて
やめてえ〜

『一滴残らず
腔内に
出すからね』
『ホラッ』

ああ
〜！



『あはは
気持ちよかったよ
キュアハートちゃん』

『じゃあ今度は
上に乗ってもらおうか』



ひ！

え？

ダメ…
もう…
助けて…

びしょ！

『ごうするんだよ!』

あ・あ・
ああ...

おあ~~~~

『ほら
嫌なら自分で
立って抜けば?』

『ほおら腔内なかに
どんどん入って
いくよ』

あは

たてない...
ちからが...

ひは...

『それじゃ
動くよ?』

やめ…
はひ…

わたしのアソコが
キュンキュン
してるっ!



『おっ!
っ!』



『キュアハートの
中が絡みつっ!』

『おお
もう一度イク』

ダメ！
おかしく
なっちゃってるー！



らめえ〜



『イク！』

うう…



腔内なかに出さないでえ
くっつ!



もう許して...

ハート!

カッ



ダメ..

はぁ

はぁ..

はぁ..

はぁ..





■ おくづけ ■

作品名	伝説の戦士でも負完全とは関わりたくない
巻数	026
発行	ライトピンク
連絡先	http://www.r-pink.jp/
協力	青空市場 (http://www.aozora7.com/)
発行日	A. D. 2013年2月28日
原案	加山 一角
作画	尚 たかみ
印刷	日光企画



成人向